

## 群馬県のセアカゴケグモ発見等の“現在（いま）”

群馬県環境森林部自然環境課自然環境係

### ●生態等

セアカゴケグモ (*Latrodectus hasseltii*) とは、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（通称：外来生物法）」に基づき特定外来生物に指定されているヒメグモ科の一種です。

オーストラリアを原産国とし、体長（頭部から腹端部までの長さ）は雄が 4~5mm、雌が 7~10mm と雌の方が大きく、雌の腹部背面には鮮やかな赤い縦条があるのが特徴です。

セアカゴケグモは、日当たりのよい暖かい場所（例：プランターの底、ベランダに置いたサンダルの中、墓石の隙間等）に営巣します。

基本的にはおとなしく攻撃性はありませんが、触れると噛まれる場合があります。

毒を持っているのは雌のみであり、噛まれると疼痛、痒み、熱感等を生じます（国内での咬傷例は主に 6~10 月に報告されています。）。



図1 セアカゴケグモ(雌) 腹部背面  
(腹部背面の赤い縦条が特徴)



図2 セアカゴケグモ(雌) 腹部腹面  
(腹部腹面にも赤い模様がある)

### ●全国での発見状況

セアカゴケグモが平成 7 年度に大阪府内の埋立地においてはじめて確認されて以降、発見された都道府県数は 37 都道府県にのぼります(平成 26 年度 11 月 20 日時点)。

港湾施設や隣接する地域において多く発見されていることから、貨物や建築資材等に付着し国内に侵入したと言われてしています。

●群馬県内の発見状況

本県におけるこれまでの発見状況は次のとおりです。

No	発見日	発見地域	発見場所	個体数等
1	平成17年8月16日	高崎市内	個人宅	8個体
2	平成24年1月24日	玉村町内	工場	7個体/卵囊4個
3	平成26年9月28日	高崎市内	個人宅	1個体/卵囊数個
4	平成26年10月29日	伊勢崎市内	自動車販売会社	1個体/卵囊数個

●セアカゴケグモとよく間違われるクモ等

平成26年度は、9月28日の高崎市内での発見以降、県民から20数件の問い合わせが寄せられました（市町村への問い合わせは除く）。

そのほとんどが、「腹部が赤い」との断片的なキーワードから、セアカゴケグモと似たような特徴を持つクモや昆虫を誤解したものでした（実際に問い合わせのあった、「腹部が赤い」をキーワードとした種は次のとおり）。



図3 ジョロウグモ (*Nephila clavata*)

(クモ目ジョロウグモ科)

※体長 6~30mm

黄色と緑青色の縦縞模様が特徴

(ぐんま昆虫の森より提供)



図4 ヨコヅナサシガメ (*Agriosphodrus dohrni*)

(カメムシ目サシガメ科)

※体長 16~24mm

カメムシの仲間で脚は6本

(ぐんま昆虫の森より提供)

●最後に

セアカゴケグモは、近年、物流網に乗って急激に分布域を広めているとの指摘もあり、また、個人宅などにて局所的に発見される事例も見受けられることから、私たちの身近な所にも生息している可能性は高いと考えられます。

そのため、野外で作業をする時は、ゴム手袋、靴下などを着用し、不用意に側溝などの隙間に手を入れないようにしましょう。

また、もしセアカゴケグモを発見した場合には、素手で捕まえたりせず、駆除する際には、「靴で踏みつぶす」、「市販の殺虫剤を直接噴霧する」等の方法により行ってください。

なお、御不明な点がある場合には、お住まいの自治体か県自然環境課 (027-226-2872) へお問い合わせください。

<キーワード> 特定外来生物 毒グモ 分布域の拡大 局所的発見